源氏物語本文資料整理の方法

A Study of a Method of Arranging the Data of Variant Texts of the Tale of Genji

大内 英範 *

Hidenori OUCHI

『源氏物語』の本文研究はまだまだ途上にある。その大きな原因は写本の調査が不完全なことにある。今後とも世界中に存在するであろう未紹介・未翻刻の写本の調査・翻刻がおこなわれなくてはならない。一方、これまで調査された本文データおよびこれから調査されるはずの本文データを、研究者間で資料を共有するためにどのように整理するべきか、あまり議論されてこなかった。本稿ではまず CSV 形式によるデータ管理について述べ、ついで異文校合ツール「kogetsu」と諸本総当たりツール「kakai」による CSV ファイルの処理について述べる。数多くの写本の資料が蓄積されていったとき、こうした処理ツールが大きな役割を担うこととなる。

The research on text of the “Tale of Genji” is still imperfect. Much manuscripts which is not known yet exists on the earth. We have to conduct those investigations. However, we hardly argued about the method of arranging the data of investigated texts. This paper reports the data management by the Comma Separated Value. And processing of the CSV file by the tool “kogetsu” and “kakai” is reported. “Kogetsu” is the tool which collates different texts. “Kakai” is the tool which measures the distance of texts by comparing many texts. When the data of much manuscripts are accumulated, such a processing tool will bear a big role.

キーワード：源氏物語、本文、別本、データ管理フォーマット
Tale of Genji, Text, Beppon, Data management format

1 はじめに

『源氏物語』の写本が現在どのくらい存在するのか、その正確なところは不明である。昭和初期の大事業であった池田亀鑑の『源氏物語大成』^[1]でさえ、そこに採用されている写本の数は、『源氏物語』の膨大な写本の一部分にすぎない。

機械で簡単に複製を作ることのできない時代、人々が『源氏物語』を手もとに置いておくためには、誰かに借りて書き写すしかなかった。書写の際の不注意や思い込み、その他の理由で本文は少しずつ少しずつ変化していった。『源氏物語』は成立から二百年を待たない平安時代の末には、既にさまざまな本文が存

在したのである。そこで藤原定家や源光行・親行親子はさまざまな写本を見合わせて校訂作業をおこない、それぞれ一つの『源氏物語』を作った。いわゆる青表紙本、河内本である。

現在、残念ながら藤原定家、源光行・親行親子が見たと思われる平安時代の『源氏物語』の写本は見つかっておらず、『源氏物語』の原本復元の試みは鎌倉時代初め、つまり『源氏物語』の成立から約二百年後までしか果たしえない状況にある。

ところが、いわゆる青表紙本、河内本の伝本と比較して特異な本文を持つ伝本も存在する。それらはとりあえず一括して別本とよばれ、藤原定家や源光行・親行親子らの校訂を経ていない、つまり平安時代の本文をとどめている可能性があるものである。中には国冬本「鈴虫」巻のように五百字を超える独自異

* 早稲田大学・戸板女子短期大学 (非常勤)
Waseda University; Toita Women's College
E-mail: h_ouchi@mbc.nifty.com

文を持つ写本もあって注目される^[2]。

現在『源氏物語』といえはいわゆる青表紙本である大島本(を校訂した)本文で読むことが一般的である。戦後刊行された主要な叢書の中の『源氏物語』の底本はほぼ例外なく大島本を中心に据えている。しかし今後は貴重な古い本文を内包する(かもしれない)別本本文についてのさらに詳しい研究が期待される場所である。そうした意味で平成14年秋、『源氏物語別本集成』(おうふう)が全15巻の完結をみた意義は大きい。しかし全国いや全世界にはまだまだ未紹介・未翻刻の『源氏物語』の写本が多数眠っているはずである。『源氏物語』の原本復元は不可能とあきらめることはたやすい。しかし今後引き続きあらゆる写本の調査・翻刻が行なわれ、あきらめずに少しでも原本復元に近づいてゆくことが望まれる。

一方、これまで調査された本文データおよびこれから調査されるはずの本文データを、研究者間で共有するためにどのように整理するべきか、実はあまり議論されてこなかった。

本稿では、調査された本文資料をいかに整理し分析すべきか、現時点での筆者の取り組みとその有用性について論じることとする。

2 CSV形式による文節単位での整理

前章に述べたように『源氏物語別本集成』が全巻完結した。これまで紹介が遅れていた別本の本文の多くを知ることでできる意義は大きい。しかし論者は同書の持つ大きな意義はそのほかにもあると考える。すなわち『源氏物語』のすべての文節に番号がふられたことである。「桐壺」巻のはじめ「いつれの」は010001,「夢浮橋」巻のおわり「ならひにとそ」は542063というように、先頭2桁が巻番号で残り4桁が巻単位の文節番号である。同書においては各巻によって底本が違ふものの、『源氏物語』の全文を文節に区切って番号をつけた例はほかにはないだろう。この偉業ともいえ

る成果は何らかの形で利用されるべきである。つまり『源氏物語』の本文は文節単位で分解し、1文節1レコードの形式で管理してはどうか。

その際、汎用的なデータ形式としてXMLを用いるのが妥当かと思われるが、あえてCSV形式とした。これは日本古典文学研究者間での共通のデータフォーマットであることを前提とするためである。現状ではXMLよりCSVのほうが理解してもらいやすい。

以下「花散里」巻を例にとって管理の方法を示す。底本ここでは『源氏物語別本集成』に倣って陽明本とする。以下、影印本を見ながら進めていく。

まず、CSVファイルを編集できるアプリケーションを開く。ただのテキストエディタでもよいが、表計算ソフトを用いるのが簡単で間違いも少ない。ここではExcel 2000を用いることにし、手順を示す。

- 1) A1セルに「花散里」巻の巻番号である11からはじまる7桁の巻・文節番号110000を入力する。『源氏物語別本集成』より1桁多いが、「若菜上下」巻の文節数が1万を超えるので、あらかじめ巻番号2桁+文節番号5桁の計7桁にしておくのがよい。
- 2) B1セルに「底本(陽明本)」と入力する。
- 3) B2セル以下に陽明本の本文を入力する。陽明本は「ひとしれぬ御心つからのものおもはしきは」とはじまる。(『源氏物語別本集成』を参考にしながら)文節に区切ってB2セルに「ひとしれぬ」、B3セルに「御心つからの」、B4セルに「ものおもはしきは」、以下巻末まで本文を入力する。
- 4) A2セルに1100001を入力し、オートフィル機能を利用して巻末までの文節番号を入力する。

こうして底本である陽明本の本文が文節単位で入力される。ちなみにミセケチや補入に関しては『源氏物語別本集成』に従って、本文に続けて「/」(全角スラッシュ)のあとに\$や+を使いながら入力す

	A	B
1	1100000 底本(陽明本)	
2	1100001 ひとしれぬ	
3	1100002 御心つからの	
4	1100003 ものおもはしさは	
5	1100004 いつとなぎ	
6	1100005 ことなんめれと	
7	1100006 おほかたの	
8	1100007 よに	
9	1100008 つけてさえ	
10	1100009 わつらはしく	
11	1100010 おほしみたるゝ	
12	1100011 事のみ	
13	1100012 まされは	
14	1100013 もの心ほそく	
15	1100014 よのなか	
16	1100015 なへて	
17	1100016 いとわしく	
18	1100017 おほしめくらさるゝに	
19	1100018 さすかなる	
20	1100019 事	
21	1100020 おほかり	
22	1100021 れいけ殿と／け+い	
23	1100022 きこゑしは	

図 1

る．たとえば陽明本 1 丁表の 7 行目、「れいけ殿と」の「け」の後に「い」を補入しているが、その場合は「れいけ殿と／け+い」と入力するのである．ここまでで図 1 のような状態になっている．

- 5) 次に対校本文を入力してゆく．たとえば尾州家河内本を入力する場合、C1 セルに尾州家河内本と入力し、C2 セル以下に底本たる陽明本の区切りに倣って本文を入力してゆく．尾州家河内本は「人しれぬ御心つからの物おもはしさは」とはじまる．入力後は図 2 のようになるだろう．以下、対校本を確認できる限り入力してゆく．複製・影印が公刊されているものだけで 10 種類以上の本文をデータ化できるし、インターネットで画像が公開されているものも数種類ある．『源氏物語大成』や『源氏物語別本集成』ほかに翻刻されているものを足してゆけば 30 種類前後の本文をデータ化することができる．もちろん大学図書館や各地の文庫を訪れて実物を確認することが大切なのはいうまでもないが、

	A	B	C
1	1100000 底本(陽明本)		尾州家河内本
2	1100001 ひとしれぬ		人しれぬ
3	1100002 御心つからの		御心つからの
4	1100003 ものおもはしさは		物おもはしさは
5	1100004 いつとなぎ		いつとなぎ
6	1100005 ことなんめれと		事なれと
7	1100006 おほかたの		かくおほかたの
8	1100007 よに		よに
9	1100008 つけてさえ		つけてさへ
10	1100009 わつらはしく		わつらはしくなど
11	1100010 おほしみたるゝ		おほしみたるゝ
12	1100011 事のみ		事のみ
13	1100012 まされは		まされば
14	1100013 もの心ほそく		ものこゝろほそく
15	1100014 よのなか		よのなか
16	1100015 なへて		なへて
17	1100016 いとわしく		いとわしく
18	1100017 おほしめくらさるゝに		おもひめくらしたまふに
19	1100018 さすかなる		さすかなる
20	1100019 事		事
21	1100020 おほかり		おほかり
22	1100021 れいけ殿と／け+い		れいけ殿と／け+い
23	1100022 きこゑしは		きこゑしは

図 2

さらに、断簡・切も貴重な本文資料である．それらを入力する際の手順を以下に示す．(落丁等で本文が存在しない部分なども同様に扱うこととする．)

- 6) 断簡・切などの本文を入力する場合には、本文の存在しない文節にはすべて「★」を入力する．これは、Excel で CSV ファイルを編集した場合、レコード(行)の終わりに空白のフィールド(セル)があった場合に、CSV 形式で保存した際にカンマの数が他の行と揃わないことがあるのを防ぐためである．
- 7) 同じく断簡・切のはじめとおわりの文節は中途半端な場合がある．その場合は「★／」に続けて本文を入力する．これは後述「kakai」において、その中途半端な文節を他本との比較に用いないようにするための処置である．

CSV 形式による本文データの管理については以上だが、注意すべき点がある．1 レコード目に対校本の名を入力する際、1 文字目に重複がないようにしなくてはならない．これは後述の異文校合ツール「kogetsu」が、1 文字目を諸本名の識別に用いるからである．したがって、「大島本」「大正大学本」のように 1 文字目が同じ本がある場合、たとえば「大

島本」「正・大正大学本」のように1文字目に別の文字がくるように工夫しなくてはならない。また底本は必ず「底本(〇〇本)」のような形で(つまり1文字目が「底」であるように)記入する。底本のデータは文節番号の次の列、つまり第2フィールドでなくてはならない。やはり「kogetsu」の仕様に関わる制限である。

こうして現在のところ、たとえば「花散里」巻については25種、「鈴虫」巻では30種を超える本文をCSV形式で管理している。このような形で管理することでさまざまに処理できるようになり、たとえば次章以降で述べる「kogetsu」「kakai」といったツールの開発にもつながったのである。また、研究者間でこうした共通のフォーマットを持つことによって、データの相互利用が可能になり、研究の進展に資するものと考ええる。

ただし写本所有者・機関によって翻刻データ等の流布を好まない場合にはそのデータの取り扱いには慎重さが求められる。複製・影印等が公刊されている場合にそれらから翻刻したデータは公開に何の制限もないと考えられる。しかし、所有者・機関に写本の実見を請い、それで得た翻刻データの取扱いは、実見の際によく確認しておかななくてはならない。

3 kogetsu による校本作成

本章では異文校合ツール「kogetsu」(湖月)によって「花散里」の校本を作成する。前章で述べたような本文データ管理によって、こうした作業を容易に行なうことができる。この処理の目的は個々の異同を細かく調べる際の資料作成にある。

3.1 異文校合ツール「kogetsu」

「kogetsu」は前章に述べたようなフォーマットに従って異本の本文を入力しておき、実行することで、異文の様子を簡単に確認できるものである。さらに若干の応用によって、要

求に応じたさまざまな情報を得ることが可能になる。jgawk版, perl版, java版を作ってみたが、論者webページ^[3]ではjgawk版(MS-DOS用)のみを公開している。perl版は将来的にcgiとしての利用へ向けて改良を検討中である。

jgawk版「kogetsu」は4つのawkスクリプトを使用しているほか、途中sortfを用いて並び替えをおこなう。同じフォルダ内に4つのawkスクリプト(kogetsu1.awk~kogetsu4.awk), jgawk.exe, sortf.exe, さらにtext.CSVの名で保存された諸本の本文データファイルが存在しなければならない。もちろんjgawk.exeとsortf.exeはパスの通っているフォルダにあればそれでもよい。

以下にバッチファイル「kogetsu.bat」を示す。

```
-----kogetsu.bat-----
jgawk -f kogetsu1.awk text.csv
jgawk -f kogetsu2.awk temp1.txt
sortf temp2.txt > temp3.txt
jgawk -f kogetsu3.awk temp3.txt
sortf temp4.txt > temp5.txt
jgawk -f kogetsu4.awk temp5.txt
del temp*.txt
```

このバッチで4つのスクリプトの実行と2度の並び替え、作業用一時ファイルの消去を行い、ichiran.txtの名で実行結果を吐き出す。もちろん各ファイル名は作業者の好みや都合でその都度書き換えられることがあるだろう。

さて、「花散里」の本文データを対照として実行後得られるファイルは以下のようなものである。基本的なスタイルは『源氏物語別本集成』の左頁に似せてあるが、細かくは異なっている。まず略号一覧を表示し、次いで1文節ずつの校異を示してゆく。その際に同じ文字列の文節はひとまとまりになるようにしている。底本(および底本と同じ文字列のグループ)がわかりやすいようにインデントもつけ、文節番号も付してある。

(以下、適宜改行を入れるなどして示す。)

底本（陽明本）〔底〕 …… 1100000
 阿里莫本〔阿〕
 河野美術館本（NIJL 紙焼本 E3100-3）〔河〕
 絵入源氏〔絵〕
 （（中略））
 尾州家河内本〔尾〕
 伏見天皇本〔伏〕
 保坂本〔保〕
 穂久迄文庫本〔穂〕
 ひとしれぬ〔底定伏〕 …… 1100001
 人しれぬ〔大保尾阿御麦国鶴絵首湖日書
 九穂伝京正肖高河〕
 御心つからの〔底大保尾阿御麦絵湖日書定
 九穂伝京正肖高河〕 …… 1100002
 みこゝろつからの〔鶴〕
 御こゝろつからの〔国首伏〕
 ものおもはしさは〔底大御日九伏京正河〕
 …… 1100003
 もの思はしさは〔肖〕
 物おもはしさは〔保尾国鶴絵首湖書定穂
 伝高〕
 物思はしさは〔阿麦〕
 いつとなき〔底保尾阿御麦国絵首湖日書定
 九穂伝伏京高〕 …… 1100004
 いつとなき／△&つ〔大〕
 いつれとなき〔鶴正肖〕
 いつれとなき／れ\$〔河〕
 ことなんめれと〔底〕 …… 1100005
 ことなめれと〔大御国絵首湖書九伝伏正〕
 ことなれと〔麦穂〕
 ことなれと／な＋め〔定〕
 事なめれと〔保鶴日京肖河〕
 事なれと〔尾阿高〕
 おほかたの〔底御〕 …… 1100006
 かくおほかたの〔大保尾国鶴絵湖日書定
 穂伝伏京正肖高河〕
 かく大かたの〔首九〕
 かく大方の〔阿麦〕
 よに〔底尾御定伏高〕 …… 1100007
 世に〔大保阿麦国鶴絵首湖日書九穂伝京
 正肖河〕

このような処理結果が得られれば、個々の異同を簡単に一覧することができ、便利である。ただ、個々の異同の細部に目が行き過ぎてしまい、大局を見失わないようにしなくてはならない。一つ一つの異同も大事だが、本と本とのトータルでみた違いも考える必要がある。そうした場合には「kogetsu」よりも次章にみる「kakai」のほうが有効である。

4 kakai による諸本間の距離計測

本章では諸本のデータを「kakai」（河海）を用いて整理する。「kakai」は第2章で作成した本文データのCSVファイルを読み込んで、諸本を総当りでその異同を計算しHTML出力するものである。写本どうしの距離をわかりやすく棒グラフで表示させるようにしている。この処理の目的は異同を細かく見るのではなく、諸本間の大まかな親近性を一覧できる資料の作成にある。

4.1 従来の試みと問題点

これまで『源氏物語』の諸本の距離測定を試みたものに伊藤鉄也の研究がある。大島本を縦軸、尾州家河内本を横軸とし、諸本の位置を2次元であらわすものである。ある本の本文を大島本、尾州家河内本とそれぞれ比較して異同率を出し、グラフ上に配置してゆくのであった。その異同率の計算にははじめ加重相加平均の手法を用いていたが、のちにさまざまな経験を踏まえて単純に同じか違うかの判定に落ち着いていったようである。

この研究のもっとも大きな特徴は、1つの本文を2つの本文と比較して2次元で表示した点である。『源氏物語』の本文の系統を青表紙本系統と河内本系統の2つを基本として、どちらにもあてはまらないものを別本とするという池田亀鑑以来の伝統的な考えに従うのであれば、ある本文の系統を判定する際にこれほどわかりやすいものはない。

しかし伊藤はその後、いわゆる青表紙本系

図3 伊藤鉄也の2次元グラフの例^[4]

統を本文「系統」と見なさずに、「河内本群」と「別本群」の2つの本文「群」にわけると、本文分別試案を提示した^[5]。これによればいわゆる青表紙本系統を認めないことになり、前述2次元グラフはあまり意味を持たなくなる。

論者はいわゆる青表紙本という一つの軸を捨て去ることにはまだ躊躇があり、伊藤論に直ちに賛成するものではない。が、いわゆる青表紙本にしても河内本にしてももう一度徹底的な考証をした上でないと軸に据えることはできないと考えている。いわゆる青表紙本は一つの本文系統たりうるのか。その最善本はなにか。純粋な河内本の本文とはどれか。こうした疑問を解決しなくてはならない。

逆に部分的に、つまり巻単位にでも上記疑問点が解消されれば、伊藤の2次元グラフは有効性を発揮すると思われる。ある2つの系統を軸として、ある本がそれらからどのくらい離れているかを視覚的に表示する手法として、今後とも利用されるべきと考えている。

では、上記疑問点を解決するためにはどうしたらよいのか。『源氏物語』の本文研究はまだまだ途上にある。第1章で述べたように、まだまだ未紹介・未翻刻の写本が世界中に多数眠っているのである。いまはとにかく多くの本文データを集積することが必要である。

その後、そうして集積されたデータを分析し、いくつかの(2つに限らない)本文系統(あるいは「群」)に分類する作業が必要となる。そのためにはあらゆる本文を総当りのリーグ戦方式でぶつけて距離を測らなくてはならない。次節ではそのための方法を考察する。

4.2 諸本総当りツール「kakai」

「kakai」は諸本の距離を測るためのツールである。現在 jgawk 版 (MS-DOS 用) のみを公開している。第2章に述べた方法で保存された CSV ファイルを「kakai」で処理すると、諸本の各文節の文字列を総当りで比較して一致・不一致をカウントし、HTML ファイルに吐き出すのである。その際に一致率を棒グラフで表示するようにしている。棒グラフの部分の背景には80%を示すラインを引いている。写本どうしの親近性が高いと思われる一つの目安として80%以上の一致率を想定しているからである。なお、これはあくまでも経験上の目安である。

以下にバッチファイル「kakai.bat」の内容を示す。同じフォルダ内に jgawk.exe と2つのスクリプト (henkan.awk, kakai01.awk), text.csv の名で保存された諸本の本文データファイルが必要である。もちろん jgawk.exe はパスの通っているフォルダにあればそれでもよい。もちろん本文データファイルや結果として得られる html ファイルの名は、作業者の好みや都合で変更すればよい。

```
-----kakai.bat-----
jgawk -f henkan.awk text.csv >
                                henkan.csv
jgawk -f kakai01.awk henkan.csv >
                                kakai02.awk
jgawk -f kakai02.awk henkan.csv >
                                kekka.htm
del henkan.csv
del kakai02.awk
```

対校本	比較文節数	一致	不一致	一致率	一致情况
底本(陽明本)	424	273	151	64%	
大島本	424	272	152	64%	
保坂本	424	288	136	67%	
阿里真本	424	353	71	83%	
御物本	424	268	156	63%	
寒生本	424	359	65	84%	
国冬本	424	268	156	63%	
鶴見大本	424	299	125	70%	
絵入源氏	424	275	149	64%	
首書源氏	424	275	149	64%	
湖月抄	424	266	158	62%	
日大蔵三条西本	424	272	152	64%	
書院部蔵三条西本	424	269	155	63%	
定家本	424	277	147	65%	
九大古活字本	424	272	152	64%	
穂久弥文庫本	424	269	155	63%	
伝為明筆本	424	271	153	63%	
伏見天皇本	424	271	153	63%	
京大中院文庫本	424	273	151	64%	
正・大正本	424	313	111	73%	
肖柏本	424	317	107	74%	
高松宮本	424	419	5	98%	
河野美術館本(NIJL紙本本E3100-3)	424	295	129	69%	

図4 kakai のレポート画面 (尾州家河内本のテーブル部分)

このバッチの内容は以下のとおりである。

1行目ではスクリプト `henkan.awk` によって本文データ `text.csv` を処理し、`henkan.csv` を出力している。これは諸本の表記の違いを丸めているのである。前章に見た底本(陽明本)「花散里」の冒頭「ひとしれぬ」と尾州家河内本「花散里」の冒頭「人しれぬ」は、表記の違いはあるが一致する文節としてカウントする必要がある。`henkan.awk` では特定の漢字表記を仮名に開いたり、たとえば「を」を「お」にするなどの処理をして、異なる表記を同一視できるように工夫している [6]。

2行目は、1行目の処理で得られた `henkan.csv` を `kakai01.awk` で処理している。ここでは本文が何種類あるかを取得し、その数にあった形で最終的な `html` ファイルを作成するための新たな `awk` スクリプト `kakai02.awk` を作成する。つまり `kakai01.awk` はスクリプトを作るためのスクリプトということになる。

3行目は、2行目で作成された `kakai02.awk` でもう一度 `henkan.csv` を処理している。諸本どうしの一致・不一致を判定・カウントし、そのレポートたる `kekka.htm` を出力している。

4, 5行目は `henkan.csv` と `kakai02.awk` を削除する。この2つのファイルは作業するたびに生成されるものであり、残しておくとは紛らわしいからである。

さて、こうして作成された出力ファイル `kekka.htm` は、それぞれの本について1つのテーブルを作っている。図4は尾州家河内本のテーブル部分であり、対校した本の数だけこうしたテーブルが生成されることになる。そのテーブルには「対校本」「比較文節数」「一致」「不一致」「一致率」「一致情况」という見出しがあり、そのそれぞれは以下の情報を表している。

- 対校本: そのテーブルの主となっている本に対し、文節比較をおこなった本の名称。クリックすることでその本が主となって

いるテーブルにジャンプできる。

- 比較文節数：比較をおこなった文節の総数。
- 一致：比較した文節のなかで一致した文節の総数。
- 不一致：比較した文節のなかで一致しなかった文節の総数。
- 一致率：「一致」÷「比較文節数」×100の整数部分(単位：%)。
- 一致情況：「一致」÷「比較文節数」×100を長さに置き換えた棒グラフ。

これをみれば諸本の親近性は一目瞭然である。「花散里」に限っていえば、大島本は定家本に非常に近く、陽明本は孤立する傾向にあるが御物本に近い。尾州家河内本と高松宮本はかなり近く、阿里莫本、麦生本とも近い。また、インターネットによる全ページ公開で話題になった大正大学本は肖柏本ともっとも近いなど興味深い結果も得ることができた。

ただし注意しなくてはならないのは、単に文節単位での一致・不一致をカウントしているに過ぎないということである。文節全体がまるで異なる場合でも接続助詞のちょっとした違いでもとにかく不一致としてカウントしている。これらに重みの違いをつけて加重相加平均処理をすればもっと正確な距離が測定できるかもしれないが、前節で述べたように伊藤もその必要性については懐疑的な方向に傾斜していったようであるし、現在のところ諸本の太まかな親近性を測るためには上記のような方法で十分であると考えている。逆に細かい異同の様子をしりたければ「kogetsu」を用いればよい。

5 おわりに

以上、『源氏物語』本文研究の重要性と、それを推進するための本文資料の整理の方法、およびそれに基づいた分析ツールの長・短所について論じてきた。最後に「kogetsu」「kakai」を用いて「花散里」本文を分析した結果についていくつか述べてみたい。

「kogetsu」の出力結果をみると興味深い異同をいくつも知ることができる。たとえば、光源氏が中川あたりを訪れ、琴の音が聞こえてきた場面、小学館全集本に「よく鳴る琴をあづまに調べて掻き合はせ賑はしく」とある部分の「琴を」と「賑はしく」の異同は

ことを〔底大保御国首湖日書定穂伝伏京〕
……1100094

こと〔絵〕

ことに／に\$を〔河〕

ことを／＋さうの〔九〕

さうのことに〔尾正肖高〕

さうのことの〔鶴〕

さうのことを〔阿麦〕

にきわ、しく〔底日伏京〕……1100098

にきは、しう〔国九伝〕

にきは、しく〔大保鶴絵首書定正肖〕

にきは、しく／く\$う〔河〕

にきははしく〔湖〕

にきわ、しう〔御穂〕

よし／＼う〔阿〕

よし／＼しう〔尾麦高〕

とあって、「琴を」を「さうのこと(に|の|を)」とするグループ〔尾正肖高鶴阿麦〕があること、「賑はしく」を「よし／＼う」「よし／＼しう」とするグループ〔阿尾麦高〕があることがわかる。

これを「kakai」で得られたテーブルと突き合わせてみる。尾州家河内本のテーブルを見ると80%のラインを超えているのは阿里莫本、麦生本、高松宮本のみ。「賑はしく」を「よし／＼う」「よし／＼しう」とするグループと一致する。また、70%を基準にするなら鶴見大本、大正大本、肖柏本がそれに加わる。「琴を」を「さうのこと(に|の|を)」とするグループと同じになるわけである。「kakai」が異同のありようまでもある程度言い当てていることがわかる。なおこの部分に限らず「花散里」全体を通してこれらのグループはグループでありつづける傾向にある。ただしこれを「系統」あるいは「群」と分類してよいかどうか

は慎重を期してさらに精査する必要がある。

もう一例、『源氏物語』の和歌は異同が少ない傾向にある。しかし「花散里」の和歌には大きな異同がある。前述の場面に続くところであるが、光源氏と昔の女との贈答のうち、昔の女の返歌である。小学館全集本では「ほととぎす言問ふ声はそれなれどあなおほづかな五月雨の空」。その二句三句に次のような異同がある。

ことゝふ [底尾阿御麦定穂伏高河]
 …… 1100170
 かたらふ [保鶴絵首日書九京正肖]
 かたらふ／＝こととふイ [伝]
 こととふ [大国湖]
 こゑは [底大保尾阿御麦国鶴絵首湖日定九
 伏京正肖高河] …… 1100171
 声は [書穂伝]
 それなれと [底大保尾御国鶴湖日定九穂伝
 伏京高] …… 1100172
 それなから [阿麦絵書正]
 それなから／から \$ れと [河]
 それなから／な＝一本れと [首]
 それなからと／と \$ [肖]

池田利夫は二句の異文「かたらふ」を『源氏物語大成』収録本文にないことから「独自異文」とし、「注目すべき別本」とした^[7]が、上記のように「かたらふ」とする本も多く、これをもって別本とするわけにはいかない。この例に限らず『源氏物語大成』に見えない異文を発見して独自異文かと考えたあとに、他本を翻刻してそれが独自異文ではないことを知ること多い。逆に、翻刻を増やしてゆくことでそれまでの優勢本文が少数本文に転じてゆくこともあるわけである。

先に、『源氏物語』の本文研究はまだまだ途上にある、と述べた。とにかく資料の整備が遅れている。1つでも多くの写本が調査・翻刻されることが研究の精度をあげることに直結する。1人の研究者が個々に翻刻できる本文の数は限られる。研究者間でできるだけデー

タを共有することが望ましい。本稿に述べたような共通の形式でのデータの整理がおこなわれ、共通の分析ツールを利用することで、本文の「系統」(あるいは「群」)の研究は飛躍的に早まるものと考ええる。

参考文献

- [1] 池田亀鑑：「源氏物語大成」，中央公論社，1953-1956.
- [2] 伊藤鉄也：「『源氏物語』の異本を読む「鈴虫」の場合」，臨川書店，p.231，2001.
- [3] <http://homepage1.nifty.com/h-ouchi/>
- [4] 伊藤鉄也：文部省科学研究費補助金 平成10年度 研究成果報告書「源氏物語古写本における異本間の位相に関する研究」(<http://www.nijl.ac.jp/~t.ito/HTML/kaken98/1236.html>) より。(2003年1月25日参照)
- [5] 伊藤鉄也：「源氏物語本文の研究」，おうふう，p.456，2003.
- [6] この変換に用いるテーブルは伊藤鉄也氏により，4.1節でみた異同率算出で用いられたテーブルの提供を受けて論者もいくつかの改良を加えたもので，精度はかなり高い。長年にわたる苦心の成果を提供くださった氏に記して感謝申し上げる。
- [7] 「古典籍と古筆切鶴見大学蔵貴重書展解説図録」，鶴見大学，106p，1994.
 ただし首書に「かたらふ」とあることを指摘している。なおこの個所については前出『源氏物語大成』にも「かたろふ」とする伝為明筆本と「かたらふ」とする(日大蔵)三条西家本の校異が載っている。伝為明筆本については論者は実見し「かたらふ」と読んだ。また実見する機会を得て再度確認したいと考えている。

(2003年2月3日受付)

(2003年3月17日採録)